

仙台別院で炊き出し

温かい食事に喜び広がる

電気は復旧したもの、断水とガスの不通が続く仙台市青葉区の仙台別院境内で、3月14日、「被災された皆さんに温かいご飯を食べていただき」と復旧支援隊と東北教区現地緊急災害対策本部が、炊き出しを実施。支援するスタッフ。多くの人が持参した缶詰めの豚汁と簡易米、別院職員と同仏婦らが用意し、振る舞われた(写真)。この保護者への口コミの通りに温かい食事をいたしましたが、炊き出し70人あまりが列を作つたりに温かい食事をいたしましたが、炊き出しは16日にも足する中で準備を進めで手を温めるようにして食事を囲む家族や友人の輪ができ、ホット

した様子で笑顔を見せていた。

近隣マンションに住む女性は「目立った被

害のない市街地では逆に物資が行き届かず、家には備蓄していた食

料がわずかにあるだけ。震災以降、3日ぶ

りに温かい食事をいたしましたが、炊き出しは16日にも行われ、雪が舞う荒天の中、150人が凍えだき体中にぬぐもりがないまま、頭を下げるなど、多く的人が感謝の言葉を口にして帰宅した。

災者の中には、別院の様子を写した写真付きメールで友人に炊き出しを知らせる人や、次の実施予定を訪ねる人もおり、被災地の切実な食糧不足とさらなる支援の必要性を感じさせた。



染みわたった。遠い京都から駆けつけてくださり本当にありがとうございます」と深々と頭を下げるなど、多く的人が感謝の言葉を口にして帰宅した。